

第16回 京都経済人会議

京都企業のトップが集い、業界の垣根を越えて地域の経済や課題について意見を交換

令和6年8月27日開催
50名参加

テーマ

京商の磁力を活かした新価値創出

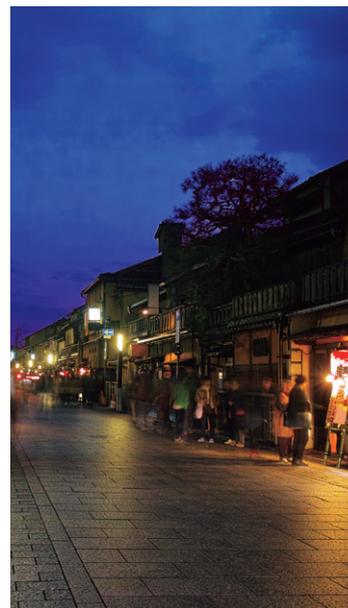
16回目の開催となる今回は、昨年の文化庁京都移転や来年に迫る大阪・関西万博を契機とし、「観光振興策」「都市デザイン」「文化と産業の循環」の3つの視点から、京都の強みを活かした誘客や産業創出のアイデアを出し合いました。

京都商工会議所ではこの会議の議論を参考に、今後の事業や要望・提言活動に取り組んでまいります。



観光振興策に関する主な意見・提案

- ＝ 混雑解消は、時間帯やエリア等多面的に分散化を図る取り組み、特にナイトタイムエコノミーに注目したい。京都の夜ならではの特別な観光体験を、新たな“おもてなしの形”として創出し、持続可能な観光コンテンツを開発・提供することが重要。
例) 納涼床の営業時間延長、
修学旅行生向け夜間文化体験
- ＝ 時間帯によって入場料を変える等ダイナミックプライシングの導入で観光収入増とオーバーツーリズム対策を両立。
- ＝ 体験を重視した観光ツアーは、他観光地との差別化に有効。
例) 伝統工芸体験を通じた地元住民との交流、
農業体験ツアー(アグリツーリズム)
- ＝ 大阪・関西万博を見据え、玄関口となる京都駅における周遊モデル等、観光情報の発信が必要。
- ＝ 外国人観光客が増加する一方で、日本人観光客が減少している。日本人が何度も訪れたいくなるよう、魅力の再構築と発信強化が必要。



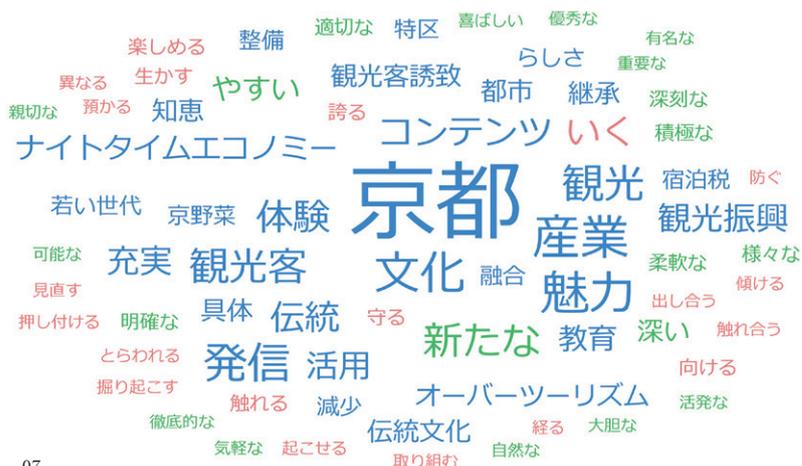
文化と産業の循環 に関する主な意見・提案

- ＝ 文化産業融合都市特区を作り、世界中のクリエイティブ人財が集まる都市を目指すべきではないか。
- ＝ 京都の教育現場にある地域に根差したユニークな活動を積極的にPRし、子育て世代の人口流入を促す取り組みが必要。
- ＝ 京友禅や西陣織等、京都には他に類を見ない高い技術力を有する伝統工芸が集積している。これらを京都ブランドとして世界に向けて発信し、さらなる価値向上につなげるのが重要。
- ＝ 伝統文化の継承には若い世代へのアプローチが重要。観光で得た利潤を伝統文化の分野へ還元し、先人から受け継いだならわしや技術の継承に戦略的に取り組む必要がある。



当日の発言内容に基づくテキストマイニング。出現回数が多いほど大きく、中央に表示されています。

※ユーザーローカル テキストマイニングツール
(<https://textmining.userlocal.jp/>)による分析 ▼



本会議の議長を務める堀場会頭代行

都市デザインに関する 主な意見・提案

- ＝ 公共交通の混雑解消と市民の利便性向上に向けて、交通インフラの大胆な見直しが必要ではないか。
例) 交通機関の生活利用と観光利用の区分、地下鉄範囲外の路線バス増便、LRT等の市内環状線敷設
- ＝ 人口流出や景観維持対策として、空き家への居住・流通促進が有効。また、企業の社宅整備に対する優遇措置等で京都で働く人が京都に住み続けられる取り組みが必要。
- ＝ 人口減少対策として、子育て世代の負担軽減や子育ての楽しさが伝わる「子育て京都モデル」の構築が必要。

